



カットやスライス用に適したトマト「サンドパル」の特性を活かす栽培技術を開発

開発の背景・ニーズ

生食用トマトは、サラダ、サンドイッチなどカットやスライスして消費することがほとんどです。また、生産者が高齢化する中で、栽培の省力化が求められています。

「サンドパル」は、こうしたニーズに応える、カットやスライス用に適し、着果促進処理が不要な単為結果性のトマト品種です。

「サンドパル」の普及を進めるため、利用に適した200g程度の果実が安定して得られる栽培方法の開発に取り組みました。



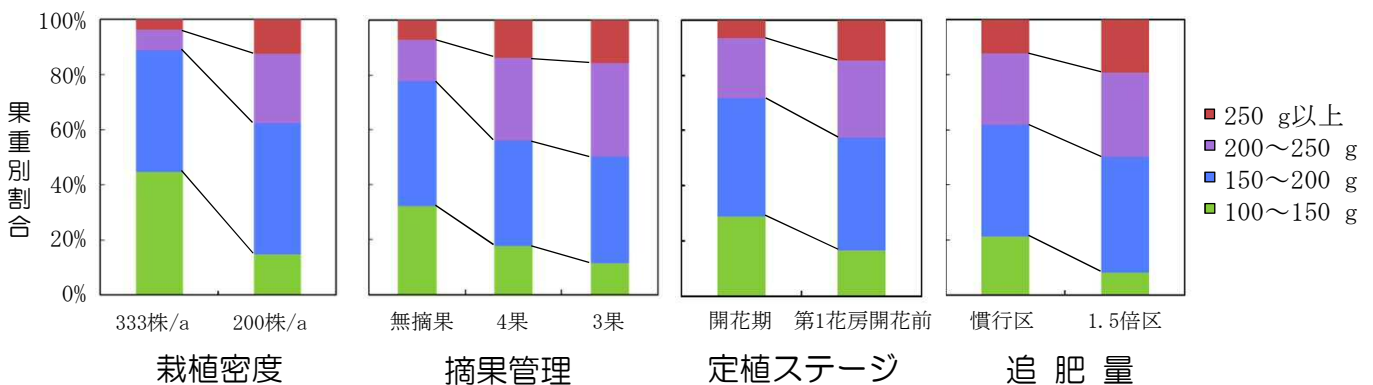
光沢が良く、赤い果色が目を引く

ゼリー部の割合が低く液だれしにくい

成果の内容

200g程度の果実を安定して収穫する技術は、以下のとおりです。

- **栽植密度** 栽植密度を200株/aまでとして、莖葉に十分な日射を当て光合成を促進させることが有効です。糖度（Brix）も5～6%と高まります。
- **摘果管理** 1花房当たりの花数を4個までに制限します。
- **定植ステージ** 従来品種に比べて早くから第1花房が肥大するため、やや若苗での定植を基本とします。通常の前1花房開花期よりやや早い、第1花房開花期前の若苗の段階で定植します。
- **追肥量** 追肥量は慣行量よりも多く施肥します。初期の生育はややおとなしく着果性が良いため、早めに追肥を行います。



200g程度の果実とは、150~200g、200~250gの2区分の果実のことを示す。

愛知県農業への貢献

愛知県は全国第3位のトマト生産県です。本研究成果により、生産者、実需者、消費者の3者のニーズに応えた「サンドパル」の普及が進むことで、トマトのさらなる消費拡大と生産振興が期待できます。

【本研究の一部は、「平成27年度あいちが作った優良品種活用推進事業」で実施した成果です】